

# 平成24年度 第3回 経営戦略会議 審議結果

日時：平成24年8月17日（金）10：30～11：50

場所：5階庁議室

【議題】 校区単位の健康まちづくり活動方針について

【提案局】 健康福祉子ども局

説明者：續健康福祉子ども局長

※前淵中央区長、西島東区長、永田西区長、永目南区長、石原北区長

【出席者】 幸山市長、西島副市長、寺崎副市長、飯銅総務局長、高田企画振興局長、石櫃財政局次長、多野農水商工局長、木下観光文化交流局次長、廣塚教育長

【付議内容】 区役所をまちづくりの拠点とし、「健康」をテーマとしたまちづくり（「健康まちづくり」）に、地域の特性にあった手法で取り組むこととしており、そのために区ごとの活動方針を決定したい。

【資料】 ◇付議事項調書（様式1）  
◇熊本市健康まちづくり活動方針（案）  
◇参考資料 各区健康まちづくり活動方針（案）  
◇参考資料 校区単位の健康まちづくり・各校区での取り組み状況一覧  
◇政策調整会議内容検討表（様式4）

【審議結果】 ◆一部修正のうえ了承

【議事概要】 ◇熊本市健康まちづくり活動方針を確定した。

【審議の経過】 ◇西区の各校区での取り組み状況で空欄が目立つ。（西島副市長）  
⇒8月中に校区自治協議会で全ての校区に説明する予定。（永田西区長）  
◇学童期における成果指標を肥満度とすることの課題について確認したい。（西島副市長）  
⇒校区毎の肥満度を比較するような形で使われることには懸念がある。（健康教育課）  
⇒教育委員会としての考えは分かるが、明確な指標から差があることを理解してもらうことも大事なのではないかと。（西島副市長）  
⇒校区毎の肥満度については、各校区での説明時に、他校区との比較ではなく、市の平均に対してそれぞれの校区の現状がどうかということを示すような使い方をしたいと考えているところ。（前淵中央区長）  
◇肥満度も含めて、健康づくりが必要なことは、誰もが理解している。それでもなかなか取り組みが進まないということを見ると、楽しい

ことに取り組む中で、健康づくりに繋がるということがあると良い。健康づくりというアプローチではなく、まちづくりなどもっと違うアプローチによって、楽しみながらそれぞれができることをするという取り組み。(寺崎副市長)

⇒たこあげやウォーキングなど、地域毎でやりたいことを引き出しながら、何をするのか考えていくことが必要。(健康福祉子ども局)

⇒各校区の歴史資料館を活用していただく観点で、ウォーキングのポイントとして入れてもらうとありがたい。(木下観光文化交流局次長)

⇒観光文化交流局からも積極的に関わっていただきたい。(幸山市長)

◇この健康づくりが成功するかどうかは、各区全体の職員が一体になれるかどうかにかかっていると考える。各区で推進体制を設けているが、具体的に機能(ワーク)しているか現状をお聞かせ願いたい。(幸山市長)

⇒区の中に入っていく際には、農業振興課やまちづくり推進課が、それぞれ福祉と一緒に動いているところ。(西島東区長)

⇒まちづくり交流室との連携がポイントだと考えている。それ以外の関係課との連携はこれからだと考えている。健康づくりをテーマとして、区役所全体が繋がっていくことが必要と考えている。(前淵中央区長)

⇒関係課も含めて、職員毎に担当校区を決めて、区の中に入っているところ。ただそれぞれの業務もあり、常に一体で動くのは難しいところもある。(永田西区長)

⇒保健師、まちづくり交流室やまちづくり推進課などと連携を図るワークショップを行った上で、現在6つのグループをつくり、それぞれ区の中に入っているところ。現時点では機能していると考えている。(永目南区長)

⇒これまで水害対応があり、区役所全体で取り組むという部分については、これからと考えている。(石原北区長)

◇区毎、校区毎に、それぞれの特色をもって、互いに刺激しあって積極的に進めていただきたい。(幸山市長)

◇健康福祉子ども局にとっては、これまでの「健康くまもと21」の取り組みなどを含めて、今回の取り組みが集大成となると考える。(西島副市長)

◇この取り組みは、健康づくりを通じたまちづくりと考えるべき。方針の冒頭部分でそのことを強調すべき。(寺崎副市長)

⇒健康づくりという目標は掲げることになるが、各区で、それぞれ取り組みを進めていただきたいと考えている。(續健康福祉子ども局長)

◇この各区での取り組みを、広報でもより積極的に取り上げていただきたい。(幸山市長)